

令和6年度 第3回 鈴西小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年10月8日(火) 10:00～11:30

2 場 所 鈴西小学校 多目的ホール

3 委員長挨拶

今年の暑さは、例年よりもさらに厳しかった。運動会は、暑い中で練習を進めてきて先生も子どもも大変だったと思うが、とてもよい運動会だった。キンモクセイのいい香りがしていて、「10月に入ったが、まだ秋は来ていない」と感じる。

少子化で子どもが少なくなり、保護者も少なくなり、植木屋も少なくなってきた。緑がいっぱいで自然豊かな鈴西小学校。人手が減ってきた今、どのように管理・維持し、環境を整備していけるか、みなさんの協力をお願いしたい。

4 学校長挨拶

本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、先日は運動会に参観いただきありがとうございました。

練習を始めた当初は、まだまだ暑い中だったが、練習場所や時間など教員が指導の工夫を行い、PTAをはじめとした保護者の皆さんや地域の皆様にも多くのご支援をいただいたおかげをもって、子どもたちも精いっぱい力を発揮することができたと感じている。

早いもので2学期も中盤に差し掛かかり、これから、後で紹介させていただく「陸上競技会」や修学旅行、社会見学そして「森のまつり」など大きな行事が目白押しになっている。行事だけでなく、低学年におけるさつまいも関連の授業や授業研修なども控え、子どもたちだけでなく、教員も力をつけていく大事な時期でもある。今後も、事故等に気を付けながら計画的に取組を進め、学校の活動全般において充実したものにしていきたいと考えている。

5 協議事項

(1) 全国学力学習状況調査について〔学校長より説明〕

「しいの実」13号参照。

学力調査の結果について「1 各教科の調査結果から」を見てわかる通り、国語についても、算数についても全国平均を上回ることはできなかった。特に算数については課題が大きくなっている。

令和6年度の6年生について、5年生から6年生にかけて、国語については上昇傾向が見られるが、算数は横ばいとなっており、上昇の傾向が見られない。2年連続で県の平均正答率を下回る状況が続いている。

各教科について詳しく分析すると、国語も算数も過学年からの課題が改善されずそのままになっている傾向が見えてきた。例えば、国語では目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討し自分の考えが伝わりやすくなるように表現する力、算数では小数の割り算における、割る数と商の関係性の理解に課題があり、これらの問題について、5年時からの課題が改善されていないことがわかった。

「しいの実」13号の裏面参照。

「3 児童質問紙に関する調査結果から」を見ると、「自分にはよいところがあると思いますか」の質問について「当てはまる」の回答が全国平均を大きく上回っ

ており、鈴西小学校の子どもたちの強みといえる。これについては、保護者・地域の方が子どもたちを大切に見守っていただき、日常の子どもたちの姿を肯定的に受け入れていただいているお陰だと思う。

「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。」の回答について、鈴西小の子どもたちのゲームに費やす時間が県や全国と比べて相対的に長いことがわかる。

「算数の勉強は大切だと思いますか。」では、県や全国と比べて勉強を大切に感じている児童の割合が少ないことがわかった。このことはとても意外だったが、国語でも同様の傾向が見られた。

これら2つの資料からわかる通り、主体的に学習しようとする意欲や、ゲーム等を含めた生活習慣と学力向上に大きな関係性があることがわかってきたので、子どもたちが「勉強の大切さ」を実感できるような授業や普段の取組について、教員が研修を深めながら授業力を向上していかなければならないと感じた。普段の授業に加えサーチ学習などの機会に、教科の学習で得た知識が「人の話を理解すること」や「自分の考えを伝えること」等に役立っていることを意識させたり「読書・家庭学習強化週間」の取組を継続していったりするなど、保護者や地域の皆様の力を借りていきながら、子どもたちの学力を向上させたいと考えている。

《委員の皆様から》

- 算数の学力は、学力向上の取組の成果が一朝一夕には出ないので、継続的に取り組んでいくことが必要。
- 「親がゲームをしているから、子どもにゲームをやめるよう言えない」という話を耳にする。いくら学校で指導しても、家に帰るといつでもゲームを使える状態。親が手本を見せていく必要がある。やりすぎると視力も悪くなる。PTAから発信してはどうか。
- 子どもの放課後の生活は、学校としては把握しにくい。社会体育の規模が縮小されているのも一因になっているのかもしれない。
- 親もゲーム世代。子どもにとって、もっと楽しくできる何か別のものがあればと思う。週1回でもよいので、放課後児童クラブができると、ずいぶん違うのではないか。
- 少子化で近所に子どもが少なく、遊びに行ける相手が少ない。子ども会の活動も縮小傾向にある。歓迎会、ラジオ体操、クリスマス会等、最低限の活動になってきつつある。
- 田植え、稲刈り、餅つき等の行事を実施しているが、特定の人しか来ない。地区内の子どもが少なく、役回りが早いからと、子ども会から抜けた地区もある。役が当たっても負担が大きくなるようにする工夫も必要。今年は夏祭りを開催したが、たくさんの人が集まった。
- 子ども同士がつながっていける場を、地域で設定していくことが必要。
- 保護者、祖父母がいろいろな場に出て、子どもも参加できるようにしていけるとよいのではないか。
- 子どもが地域行事に参加している家庭は、親も参加している。
- いろいろなスポーツ（社会体育）は、親が出られないから子どもを入団させられないというケースもある。
- 孫が野球チームに入っている。親が「せっかくの休日なのに…」と、休日でも休むことができず、生活に余裕がなくなっている。
- 子どもの数が減ると、サッカーや野球のチームも、以前は鈴西で1チームあったが、今は周囲の小学校のチームと合同になってきている。練習場所が他校になると、子どもが自力で行くことができず、親の送迎が必須になった。仕事で日中に

送迎できない人が多く、ナイター練習が設定されることもある。それでも参加させたいと思える親でないと続かないから、余計メンバーが少なくなる。

鈴西小学校だけでできれば、もっと参加しやすくなるだろうが、それが難しい。

○学校から家に帰るのも遠くて時間がかかる。歩いて帰っていたらチームの練習に間に合わないから送迎するというように、何をすることも送迎が必要になっている。

○昔は自分の子どもだけでなく、近所の子どもも車にのせて送ることがよくあった。今はそれも難しい時世になっている。

○小学生の間に、いろいろな体験を積ませたい。著しく成長する小学生の時期に、制限・制約されてしまうのが残念。何とかしたい。

○私の子は、学童で育ててもらったという位、お世話になった。サッカーや野球等のスポーツは、昔の子どもは自分たちで集まって楽しく遊んでいたが、今はそれができなくなっている。

○昔は、「放課後、学校に残ってみんなと遊んでから帰る」ということもできたが、今は安全（事件・事故防止）のため、集団で帰らなければいけない。

○子どもたちの活動の幅が狭められている中、生き生きと成長していける場や環境をどのようにつくっていけるのか、考えていきたい。

（２）教育活動の状況について〔学校長より説明〕

先程の「全国学力学習状況調査について」に関連付けて、鈴西小の授業での取組例について、お伝えしたい。「しいの実」１０号裏面を参照。本校においても他校の実践を参考にしながらＩＣＴを活用した複線型授業について取組を進めている。子どもたち自身が「もっとわかりたい。」「調べたい。」と感じられるような気持ちを高め、学力の底上げをめざしたい。

また、全国学調における家庭学習にかかわる調査項目について、令和５年度と令和６年度を比較したところ、２時間以上１時間以上学習した児童の割合が増加傾向にあり、１時間以上に限ると全国平均を上回ることができている。鈴峰中校区での統一した取組の効果が表れているのではないかと考えている。今年度より自主学習のノートを掲示し、より良い学習の方法について広めるなど、取組を充実させるとともにＩＣＴ活用についても試行錯誤を繰り返している。

今後子どもたちが、学校の内外を問わず自主的に学習する取組を継続し、学力の向上と非認知能力の向上につなげていきたい。

《委員の皆様から》

○今年度の校内研修も、サーチ学習でしているか。

⇒今年度は、算数で研修を進めている。習熟度別少人数での授業で、学力の向上に取り組んでいる。

○サーチ学習と各教科との関連性について、どのように学習内容がリンクしているのか分かるものがあると、私たち（学校運営協議会委員）にも分かりやすい。

森のまつりはサーチ学習の成果の発表だと聞き、楽しみにしている。

6 情報交換・その他

○ 二学期学校行事について

・校内陸上競技会 １１月 ８日（金）午前中 予備日１５日（金）

・森のまつり １１月２９日（金）午前中

○ 「人権フォーラムれいほう」について 参加のお願い

○ 第４回 中学校区合同の学校運営協議会について

○ 第５回運営協議会について

○ 令和７年度運動会について １０月２５日（土）で計画

8 教育委員会より（鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課 加藤稔明先生）

○子どもの1日の過ごし方について、たくさんの意見が出された。ゲームやテレビの時間が長くなるのは、致し方ない部分もある。

昔と違って、放課後、遊んでから帰宅するということは出来ない。近所に友達が少なく、親が仕事を終えて帰宅するまで、子どもだけで家にいたら、することはテレビやゲームになってしまいやすい。社会体育も維持が難しくなっている。具体的に、どのようにしていけばいいのか。とても難しい問題。

○放課後児童クラブの話も挙がっていた。居場所ができるので子どもたちにとって、とても良いが、誰がするのか、場所をどうするのか、始めるまでに解決すべき問題は多い。とても大変だが、やる価値は十分ある。放課後、行きは学校から直接子どもが行けばよいが、帰りは保護者の迎えが必要になるので、保護者の負担はある。

ある校区では、公民館を借りて寺子屋のようなものをつくろうとする動きがある。週1回でも、そのような形でできないか。この学校運営協議会で話し合ってもらえたらと思う。

○自分も3人の子どもを育てた。3人ともそれぞれ違って、いろいろなことがあったが、休日（土日曜）がほとんどつぶれてしまい、自分自身の余裕がなくなっていた。保護者にとって、余裕がなくなり無理が出てきてしまうのは良くない。子どもの活動と親の生活スタイルのバランスが大事。

○地域行事も年々、減ってきている。地域の中で子どもをどう育てていくかについても、この場で話し合い、考えてもらえると嬉しい。何か仕掛けが必要。新しいことを始めるには労力が必要になるが、それを誰がするのか。協力しあって、いろいろな人が関わり合って、実現できるとよいのではないかな。時間をかけて、考えていきたい。

○全国学力・学習状況調査について。鈴西小学校全体として、子どもたちに学力をつけていくために、どのような手立てで進めているのか、という視点で見ていただきたい。その年度によって子どもに違いがあり、能力差があるので、結果の数値だけでは見えないこともある。

今年度、算数で少人数教育を行い、学力・学習状況調査から見えてきた課題に取り組んでいる。すぐに成果は出にくく、2～3年後になって成果が出てくると思うので、「あの時、校長先生が言っていたことが、今、成果として表れている」と感じていただければ、と思う。